

第4回 助動詞（1-1）

氏名（ ）

傍線部内にある助動詞をすべて□で囲み、その意味用法と活用形を書き、さらに傍線部を訳せ。

- ①思はむ子を法師になしたらむこそ心ぐるしけれ。
 完了・未然 ←
 仮定or婉曲・連体 「してしまつ ような」とば「したとしたら、それは」

- 打消・連用 過去推量・連体 「満足しなかつたのだろうか」
 ②あかずやありけむ二十日の夜の月出づるまでありける。「あく」（満足する）
 「ありける」（そこ）にいた

- 意志・連体 断定・終止 「するつもり だ、しようとするのだ」
 ③「義仲は討死をせんずるなり」（義仲自身のこころ）

「退出しましょ」 「泣いているだろう」

- 意志・終止 現在推量・終止
 ④憶良ら（＝私）は今は「宴会を」まからむ子なくらむそを負ふ母も吾を待つらむそ

「まかる」（退出する）

- 反実仮想・連体or終止 「うれしいだろうか」
 ⑤いつはりのなき世なりせばいかばかり人の心のうれしからまし

現在の婉曲・連体 「お思いになつてゐる（ような）」

- ⑥「あが仏（＝娘よ）、何事を思ひたまふぞ。思すらむこと何事ぞ」（翁からかぐや姫へのことば）

- 強意・未然 勧誘・終止 「お聞きになりませんか、聞いてください」
 ⑦「…翁（＝私の）申さむ」と聞き給ひて むや（同右）

「染めているのだろうか」

- 現在の原因推量・連体
 ⑧白露の色はひとつを（＝なのに）いかにして秋の木の葉をちぢに（＝いろんな色に）染むらむ

↓「ドウシテ」

「染めているのだろうか」

- ためらいの意志・連体or終止 「書いたものだらうか、書こうかしら」
 ⑨これになにを書がまし。

打消意志・終止 「死なないようによしよ、死ぬことはしないつもりだ、死ぬことはするまい」

- ⑩われ、いかでか（＝どうにかして）七月・八月に死にせじ。